

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	警防業務に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	9	1	1	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	佐藤俊一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	継続的に講習会を実施することにより、講習修了者を増やす。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	継続的に講習会を実施することにより、講習修了者を増やす。
②①に基づく取り組み結果	継続的に講習会を実施することができた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民・市内事業所の従業員	意図(対象をどうするのか)	市民に心肺蘇生法、AEDの使用方法、応急手当の方法の普及啓発を図り、有事の際にしっかりした応急手当ができるようになる。
②事務事業の概要	救急車到着までの間、現場に居合わせた人により効果的な応急手当が実施できるよう、市民及び各種団体を対象に救命講習を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	AEDが一般市民にも使用可能になったことにより、初期の救命処置が注目されるようになった。心肺蘇生法のガイドラインの変更により、実施方法の変更、講習項目が細分化され、今後、更なる受講者数の増加が見込まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	市広報紙、ホームページ等で地域住民に参加を呼びかけ、消防本部で普通救命講習Ⅰ(一般市民向け:成人を対象)・Ⅱ(一定頻度者向け:成人を対象)・Ⅲ(一般市民向け:小児・乳児を対象)を44回実施し、611人が参加、また上級救命講習(一般市民向け:成人・小児・乳児を対象)を2回実施し、32人が参加した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	普通救命講習修了者数	697	782	643	人	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳			平成29年度予算	
事業費(千円)	13,231	14,836	金額(千円)	内容		18,197	
国支出金(千円)			1,999	救急活動消耗品			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	13,231	14,836				18,197	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	継続的に講習会を開催し修了者を増やしているが、更なる受講者の拡大のため効果的な広報活動等の実施を検討する。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	継続的に取り組み検証し、対応することが安全に暮らせる社会に繋がる。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H27からの繰越	
		H27⇒28繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由			流用・充当			
	平成29年度への繰越額(単位:千円)					

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	防火水槽用地購入事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	1	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	佐藤俊一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成28年度新規事業のため、前回掲げた内容なし。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	平成28年度で事業が終了のため、なし。
②①に基づく取組み結果	平成28年度新規事業のため、取組み結果なし。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	防火水槽用地	意図(対象をどうするのか)	借用し防火水槽を設置していた土地を購入するもの。
②事務事業の概要	千葉県企業庁から借用していた防火水槽用地を購入し、継続的に防火水槽を確保する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	防火水槽用地を購入することで、消火活動に重要な消防水利として継続的に確保できること、及び借地料が不要となる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	千葉県企業庁から借用していた防火水槽用地26.25㎡を購入し、継続して防火水槽を確保した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	防火水槽用地購入			26.25	㎡	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算		
事業費(千円)		1,150	金額(千円)	内容	0		
国支出金(千円)			1,150	防火水槽用地購入			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)		1,150			0		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	なし					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	借用していた防火水槽用地を購入し、消防水利を継続的に確保した。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	千葉県企業庁より借用していた防火水槽用地の購入。	平成28年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	防火水槽用地26.25㎡を購入した。	1,150	1,150	当初	1,150	H27からの繰越	0	
				H27⇒28繰越				
③達成状況	完了			補正		1,150	現年分	1,150
④未完了・非着手の理由				流用・充当				
		平成29年度への繰越額(単位:千円)		0				

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消火栓改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	1	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	佐藤俊一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	該当なし	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	経年劣化によりボルトが腐食し、破損の危険がある消火栓7基のうち、2基の消火栓の改修を行う。
②①に基づく取り組み結果	改修計画を作成し、優先度の高い消火栓2基の改修を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消火栓	意図(対象をどうするのか)	経年劣化により破損の危険がある消火栓を改修する。
②事務事業の概要	経年劣化により破損の危険がある消火栓7基を、4ヶ年に分け優先度の高いものから計画的に改修を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	消火活動に欠かせない消防水利について、有事の際の使用に支障がないよう今後も維持管理を行う必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	改修計画を作成し、優先度の高い消火栓2基の改修を行った。					
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	算定根拠
	i	改修完了消火栓			2基	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳			平成29年度予算
事業費(千円)		3,486	金額(千円)	内容		4,420
国支出金(千円)			3,486	消火栓改修工事		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)						
一般財源(千円)		3,486				4,420

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	現在使用不能としている消火栓について、早急に改修を行う必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	消火活動に欠かせない消防水利について、今後も維持管理を行う必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	消火栓2基の改修。	平成28年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	消火栓2基の改修を行った。	4,446	4,446	当初	4,446	3,486	H27からの繰越	0
				H27⇒28繰越			現年分	3,486
③達成状況	完了			補正				
④未完了・非着手の理由				流用・充当				
				平成29年度への繰越額(単位:千円)		0		

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防団運営に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	9	1	2	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	佐藤俊一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	消防団施設の維持管理及び、団員確保のための広報活動の拡充を図る。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	消防団施設の維持管理及び、人員確保と装備の充実化を図る。
②①に基づく取り組み結果	消防団広報誌また、各イベントを活用し、団活動PRIにより広く広報した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防団員、消防団施設、消防団車両	意図(対象をどうするのか)	災害活動に関する消防団員の環境整備及び消防団施設の機能維持管理。
②事務事業の概要	各種災害に出動して中心的な役割を果たす消防団を維持するため、計画的な運営を図るとともに、環境を整備する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	産業・就業構造の変化等による被雇用者(サラリーマン)の増加と若年層の流出、また、消防団員の高齢化がさらに進み、入団者の減少による定員割れが予想される。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	地域防災力の要である消防団について、活動への理解や協力を得るため消防団広報誌を作成し、市内全戸配布を行った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	消防団員の定数に対する充足率	93.4	90.4	90.4	%	業務取得
	ii	機械器具点検	480	480	480	人	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算		
事業費(千円)	27,433	27,145	金額(千円)	内容		29,495	
国支出金(千円)			6,850	消防団員報酬			
県支出金(千円)			7,865	費用弁償			
市債その他(千円)			1,089	健康診断手数料			
一般財源(千円)	27,433	27,145	2,060	消防団運営交付金		29,495	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	環境整備及び広報活動の拡充等を行い、団員の減少に歯止めをかけ人員を確保する。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	危機管理体制や地域防災力の向上など、防災に関する市民ニーズは上昇傾向にあり、今後、更に高まると予想できるため、継続して行う必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H27からの繰越	
		H27⇒28繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由			流用・充当			
	平成29年度への繰越額(単位:千円)					

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防団装備品整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	2	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	佐藤俊一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	消防団の装備品について「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」による消防団装備品の更新及び日本防災協会認定品への防火衣の更新を行う。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	消防団員の防火衣について安全性、活動性に優れた防火衣への更新を行う。
②①に基づく取り組み結果	消防団員の活動服について、機能性及び識別性に優れたものに更新した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防団員、消防団装備品	意図(対象をどうするのか)	消防団装備品について機能性等に優れたものに更新する。
②事務事業の概要	消防団員が効果的な活動を行うために、消防団装備品の充実強化を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	地域防災の中心的役割を担う消防団の活動は、今後さらに重要となることが想定されることから、引き続き消防団装備品の充実を図る必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	耐切創性手袋を160双及びトランシーバー24機を配備した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i 消防団活動服の更新数		326	0	着	業務取得
	ii 耐切創性手袋の配備数		0	160	双	業務取得
iii トランシーバーの配備数		0	24	機	業務取得	
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算	
事業費(千円)	4,788	806	金額(千円)	内容	6,000	
国支出金(千円)			472	耐切創性手袋		
県支出金(千円)			334	トランシーバー		
市債その他(千円)	3,000					
一般財源(千円)	1,788	806			6,000	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	消防団装備品整備事業として計画的に装備品を整備する必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	消防団装備品の充実強化に関しては、平成27年度から計画的に行っており、今後もこれに係る手続きを進める必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	耐切創性手袋及びトランシーバーの配備。	平成28年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	耐切創性手袋160双、トランシーバー24機を配備した。	980	980	当初	980	806	H27からの繰越	0
				H27⇒28繰越			現年分	806
③達成状況	完了			補正				
④未完了・非着手の理由				流用・充当				
		平成29年度への繰越額(単位:千円)		0				